

人工知能の哲学の現在地点

鈴木 貴之（東京大学）

第2次人工知能ブーム期まで、人工知能に関する活発な哲学的論争が展開されていた。そこで主題となっていたのは、第一に、人間のような知能をもつ人工知能を実現することは可能かどうかであり、第二に、人工知能は人間の心を理解するうえでどのような手がかりを与えてくれるかということだった。しかし、人工知能研究が停滞期に入ると、これらの論争も明確な決着を見ないままに鎮静化してしまった。

しかし、過去15年ほどのあいだに、人工知能研究はふたたび爆発的な進展を見せている。その原動力となったのは、古典的な人工知能とは異なる種類の、深層ニューラルネットワークによる大規模な機械学習にもとづく人工知能である。

本提題では、近年における人工知能研究の発展をふまえて、人工知能の哲学においてかつて論じられていた問いはどうなったのかということと、現在の人工知能に新たな興味深い哲学的問題を見出すことはできるのかということを検討したい。